

平成25年度第1回青梅市美術館運営委員会会議録

平成25年4月25日(水)
美術館第1研修室
会議時間 13:55~15:15
出席者 委員7名、教育長
教育部長、事務局4名

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 教育長あいさつ
- 4 委員長あいさつ
- 5 報告事項
 - (1) 平成24年度青梅市立美術館事業結果について
 - ア 展示事業について
 - イ 普及事業について
 - ウ その他の事業について
 - エ 展示室研修室貸出使用状況について
 - オ 入館者数について
 - カ 収蔵資料について
 - キ 広報、広告について
 - ク 施設整備について事務局説明
 - (2) アンケート結果について
事務局説明

〔主な質疑・応答・意見〕

- (委員) ビエンナーレOMEの観覧者数が1000人余りであるが、市内の方の観覧が少ないように思われる。市民に対する広報、周知はどのようにされたのか
- (事務局) 入選作品展の市民への周知は、広報おうめ、生涯学習だよりに掲載したほか、西多摩新聞、西の風新聞といった地元紙に募集および入選作品展の記事が掲載された。また、市内公共施設に

ポスターを掲示した。

(委員) ビエンナーレOMEのポスターを見ると、具体的な内容が分からないので、それがどのような展覧会で、市民が行ってみたいと思うような呼びかけになっていないような気がするがどうか。

(事務局) 次回以降の検討課題とする。

(委員) ビエンナーレOMEのアンケート結果に、会場が暗すぎるという意見があるが、どのように分析しているか。

(事務局) 蛍光灯から発せられる紫外線から作品を保護するため、国際的に作品を照らす照度が決められている。また、日本画、洋画の別、あるいは作品の濃淡によって照度を変えることが理想である。しかし、当館のスポット照明は調光ができないこと、展示スペースの関係で、作品分野ごとに分別して展示することができなかったことから、脆弱な材質の作品に合わせて照度を落として調整した結果、従来よりも会場が暗くなったものである。さらに、当館のホールには大きな窓があり、非常に明るいところから、瞳孔が狭くなった状態で暗い展示室に入ると、余計に暗すぎると感じられるのではないかと考える。なお、作品目録や展示室のパネル掲示により、作品保護の趣旨を明示し、来館者に理解を求めている。これに関しては、現在、アンケートで意見を集めており、実際に様々な声が寄せられている。今後も、アンケートを参考にしながら、作品の保存を考慮したうえでの展示活動、普及活動を行っていく。

(委員) 紫外線を低減したタイプの照明があるので、予算の関係もあるが、本来あるべき美術館の設備の充実に努めていただきたい。

(事務局) 限られた予算の中で、優先順位をつけ。できる範囲で対応していきたい。

(委員) 理想的な調光ができる照明は高額なのか。

(事務局) ウォールウォッシャーという壁単位で照らすスポットライトがあるが、国内の美術館では、ドイツ製のものが大きなシェアを持っており、1台約15万円で、当館の規模で五、六十台必要となる。なお、現在、LED化が進んでおり、メーカーの新規参入もあるので、情報を収集しながら、適切な時期に導入を検討

したい。

(委員) 美術館には高齢者から子どもまで広い階層の来館者があり、なかなかすべての方に満足してもらえるような対応はできないと思うが、展示方法にどのような工夫を凝らしているか。

(事務局) 観覧者は比較的女性が多いことから、通常、作品の展示は女性の目線の高さに合わせ、作品の縦辺の中心を床から 145 cm にしているが、夏休み展のように小学生の来館が多いと予想される時は作品の展示位置を 10cm 下げたり、キャプションにルビをふるなどの工夫をしている。今後も展覧会ごとに工夫していきたい。

(委員) 現在、開催中の展覧会で、第 1 展示室の中央に仕切りが設けられているが、以前もそのような展示をしたことがあるのか。

(事務局) かなり前にも展示点数を増やす場合に取られていた展示方法で、室内の滞留時間が長くなるという効果もある。実際、アンケートでも好意的な意見が寄せられている。

今後も展覧会の内容と規模により展示方法を検討していく。

(委員) 当館は自然豊かな場所にあるが、防虫、防菌対策はどのように図っているか。

(事務局) 保存科学では殺虫よりも虫が入ってこないような予防措置から講じていくことが主流になりつつある。本年度、北面および南面の外壁工事を予定しており、壁面の隙間はなくなると考える。また、毎日の清掃で清潔に保つことを心がけており、雨天の日の傘の持ち込みを禁止している。今後、絨毯の張替の際には防虫効果の面も考慮するほか、必要に応じて、文化財研究所の専門家の助言を受けながら防虫、防菌対策を講じていきたい。

(委員) アンケートの回答で、ホームページを見てもなかなか情報が伝わってこないという意見があったが、ブログをアップするといった考えはあるか。

(事務局) 青梅市教育委員会のホームページがあり、その中に美術館のページがある。そこで、展覧会やイベント情報などを掲載している。掲載情報については、「美術館だより」というページを中心に頻繁に更新し、できるだけ情報は発信するよう心がけている。

なお、最近はやりのツイッターやフェイスブックについては、情報漏えいや不適切な書き込みによる炎上等の問題があり、公的機関での活用は難しいと考える。

(委員) 多くの美術館のホームページで、収蔵品が検索できないが、その理由は何か。

(事務局) ホームページの容量やデータベース導入などの予算的な問題、また作品画像の著作権の問題もがあると考えます。

(委員) 夏休みの小中学生を対象とした講座の参加状況と周知方法を伺いたい。

(事務局) 各校に夏休み用のチラシとともに、ミュージアムパスポートを配布し来館を誘致しているが、先生方や保護者の方の理解や協力が不可欠で、ギャラリーガイドや実技講座など、定員に満たないことが多い。美術館の認知度を上げるため、学校側においても遠足等の行事で来館くださるよう計画をお願いしたい。

(委員長) 文部科学省では、体験型の授業を重視してきているので、美術に関しても説明型の鑑賞だけでなく、対話式の鑑賞など、工夫を凝らして盛りたてていただきたい。

6 その他

(事務局) 次回運営委員会は、平成26年1月24日(金)午後2時を予定している。

7 閉会